

はじめに

大阪教区は信徒奉仕職研究チーム(以下、「当チーム」と表記)を設置し、「信徒の奉仕職の展開ないし促進について、総合的に調べ研究」することに取り組んできた(後述「付記 チームの目的と活動状況」参照)。教区においては、かねてより「新生計画」が策定され、信徒の果たすべき役割を強調したビジョンの元でさまざまな取り組みが進められている。おりしも2002年4月からは、教区全体でブロック化が取り入れられ、教会の宣教司牧活動において信徒が責任を負い、担わなければならない役割は、ますます高まる状況にある。

しかしその一方で、小教区など教会における日常的な活動の中でそのビジョンが十分に活かされるまでいっていないだけでなく、依然として司祭に依存しようとするとする考え方が根強く働いている現実があることも事実だろう。

そこで当チームは、任務を遂行するに当たり、まず第一段階として、「信徒奉仕職とは何をさすのか」「なぜそれが必要なのか」について、できる限りカトリック教会の公式な見解をもとに定義付ける必要があると考え、その部分から研究を進めることとした。したがって、当文書は、今後教区全体が信徒奉仕職を促進していくための最も基本的な共通認識となることを目指し、第二バチカン公会議公文書を中心にすえ、課題についての基本原理の概要を記述するものである。

1. 教会における信徒の位置づけとその役割

信徒奉仕職について定義し、それをどのように促進するのかを考察するためには、まず、キリストの教会の成員の大多数を占める信徒とは何であるか、そして、そもそもこの教会にはどのような使命があたえられているのか、について明らかにする必要があるだろう。当然のことながら、信徒をにおいて教会はありえず、教会をにおいて信徒の奉仕職もありえない。そこで、教会の役割を明確にし、その中での信徒の位置づけを定めた上で、信徒奉仕職のあり方を整理していくことにする。

1) 教会の使命

教会とは何か、そしてこの地上の教会はそれが存在する場であるこの世界とどのように関わっているのかについて、公文書は次のように述べている。

「教会はキリストにおけるいわば秘跡、すなわち神との親密な交わりと全人類一致のしるしであり道具である」(教会憲章 1)。

「教会が『救いの普遍的秘跡』であり、人間に対する神の愛を現わし実現する秘跡である」(現代世界憲章 45)。

そしてこの教会は、次のように宣言する。「現代人の喜びと希望、悲しみと苦しみ、特に、貧しい人々とすべて苦しんでいる人々のものは、キリストの弟子たちの喜びと希望、悲しみと苦しみでもある。真に人間的な事からで、キリストの弟子たちの心に反響を呼び起こさないものは一つもない」(現代世界憲章 1)。

すなわち、「キリストのあがないのわざは、本来、人の救いを目ざすものであるが、それはこの世の秩序全体の刷新をも含んでいる。したがって教会の使命は、ただキリストの福音を告げ、その恩恵を人々にもたらすだけではなく、この世の秩序を福音の精神で満たし完成することである」(信徒使徒職教令 5)。「この全世界は、神の国の完成のために、神の計画に従って、つくり変えられなければならない」(信徒の召命と使命 1)のである。

「教会の望むことはただ一つ、すなわち、真理を証明するために、裁くためではなく救うために、奉仕されるためではなく奉仕するために、この世に来たキリスト自身の仕事を、